

が1台である。全面に古びたクロスが貼られた壁面に、レイアウトに従ってパネルを貼っていった。ケースが聞いていた大きさとおりだったので、まったく支障なく作業は進み、先方の手を煩わせることも無く問題なく設営を完了した。100点近い資料がまたたく間に設営されたことに、RBMLの皆さんもたいへん驚いていた。

9日夜には宗像副館長も到着され、翌10日に準備の状況を確認していただき、同日夜にはこれまでもたびたび本誌上で紹介している甲斐美和女史と会食、90歳を超えているとは思えない元気そうな話しぶりと、その健啖に圧倒されつつ、楽しい時間を過ごすことができた。

翌11日夕刻、Butler Libraryでオープニングセレモニーが開催された。当初は展示会場での簡単な挨拶程度を考えていたのだが、コロンビア側の計らいで100人ほど入る教室が別に準備された。最初に東亜図書館のHeinrick館長から挨拶があり、甲斐さん、続いて角田柳作の弟子にあたるDonald Keene先生、James Morley先生からそれぞれ角田柳作にまつわる思い出を語っていただいた。100人ほど入る会場は満室、日本人会関係、コロンビアに学ぶ学生など、さまざまな人がユーモアを交えた3人のお話に聞き入っていた。

展示会場に移動し、宗像副館長とコロンビア大学図書館のNeal館長から開催の挨拶をいただいたのち、来場者



に自由に展示をご覧いただいた。見学された方たちのお話を聞くと、一様に「角田についてはよく知らなかったが、今回の展示でその偉大さを再認識した」「こうした機会はこれからも必要ですね」といった声が聴かれた。まずは無事に開会を迎えることができ、一安心といったところであった。

新学期を迎え、来場者の増加が見込まれることもあって会期の延長が決定、9月23日まで開催された。11月末の図書館総合展(26~28日、パシフィコ横浜)でも角田柳作に関するパネル展示、講演会をおこなうことが決定し、また上毛新聞(群馬地方紙)では角田に関するコラムも連載された。著作集の刊行こそまだだが、角田柳作はまだまだ終わらない。

## 展覧会案内

松尾 亜子(資料管理課)

早稲田大学図書館所蔵 西洋古版本展  
ルネサンスの書物とパラディオ『建築四書』

会場 総合学術情報センター2F 展示室

会期 2008.10.24(金)~11.20(木)

※10.26(日)を除く日曜、祝日は閉室

時間 10:00~18:00

早稲田大学図書館では、インキュナブラとよばれる西洋活版印刷の最初期の版本をはじめ、ヨーロッパの古書・貴重書を多数所蔵しています。今回は、15~16世紀にイタリアで刊行されたものを中心に、館蔵の西洋古版本を展示、ルネサンス期に出版されたギリシア・ローマの古典、そしてダンテ、マキャヴェリ、ヴァザーリなど同時代人たちの著作に加え、今年が生誕500年にあたる建築家アンドレア・パラディオの著作コレクションを紹介しました。

(表紙および16ページ参照)



〈会場の様子〉